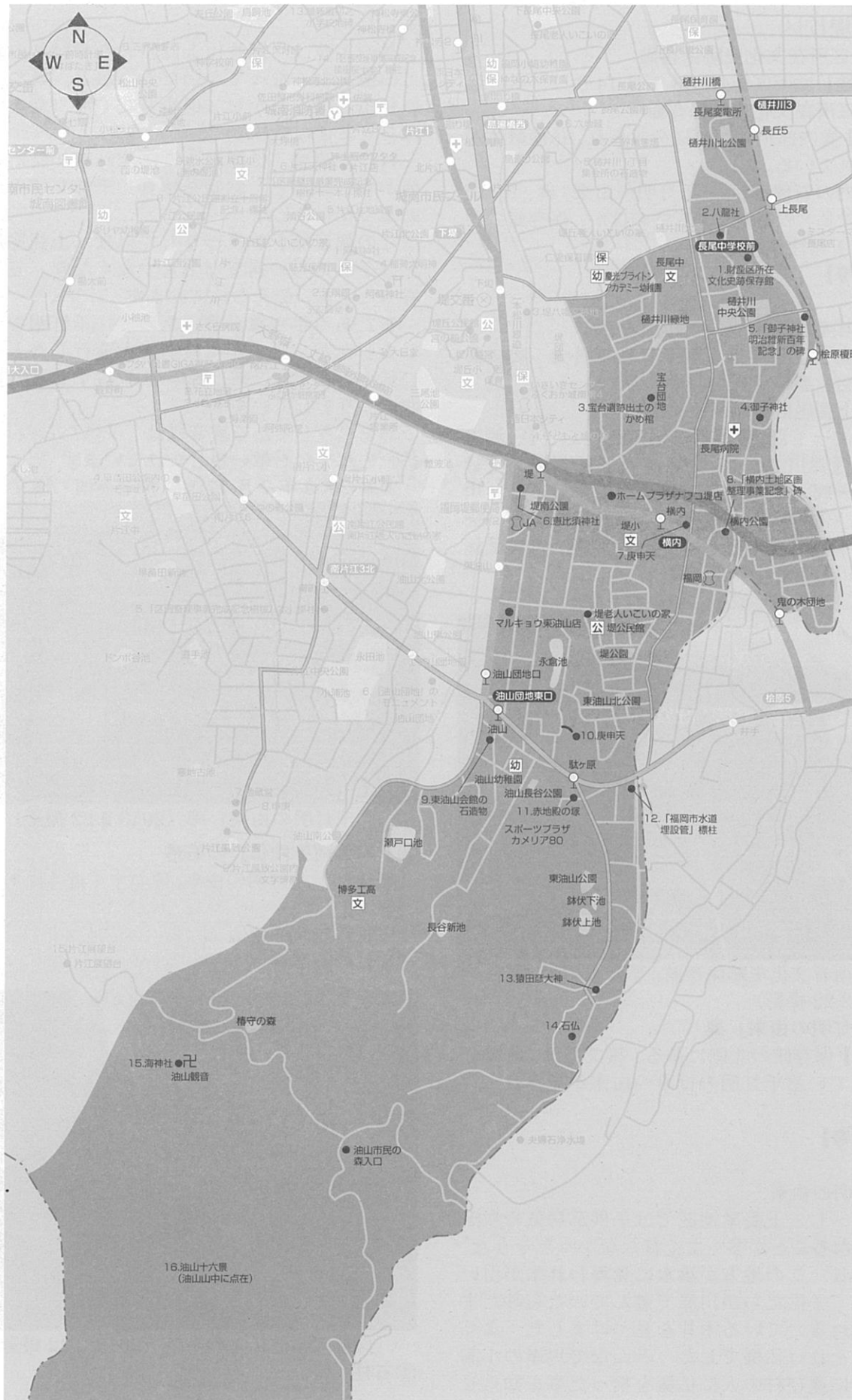


6章 つつみ 堤校区



6章 堤校区

1. 財産区所在文化史跡保存館

【所在地】城南区樋井川3丁目14・9

①財産区所在文化史跡保存館

【概要】堂内部が4区画に分けられ、仏像数体が安置されている。

【敷地内の石碑等】②「千灯明の由来」碑、③「南無阿弥陀仏」の石塔、④石柱のほか、保存館の前付近に*1標柱がある。

【碑文等】

*1標柱

〔表〕財産区所在 文化史跡保存館

〔左側面〕上長尾区有財産管理委員会 委員長 石橋善治 事務局長 羽根健書

〔裏〕上長尾区財産区住民代表

西長住一丁目 渡邊朝子／西長住二丁目 渡邊和雄／樋井川二丁目 吉原泰司／樋井川二丁目 織田喜一郎／樋井川三丁目 羽尻一三／樋井川三丁目 石橋善治／樋井川三丁目 松隈良博／樋井川四丁目 羽根健／樋井川六丁目 吉浦徳義／樋井川七丁目 春田正興

二〇〇〇年（平成十二年）六月吉日



財産区所有文化史跡保存館。写真右に*1標柱（2013.2.22撮影）

②「千灯明の由来」碑

【概要】保存館の北側にある。碑文には、地域で行われている千灯明の行事の由来が記されている。

【碑文等】

〔表〕

千灯明の由来

“むかへし 上長尾地区では子供が病気や疫病で亡くなることが多くよく育たなかったそうな”

ある日 この地方が洪水に見舞われ水が引いたあと 子供たちが川原で遊んでいた砂だまりに流れ着いている木片を見つけました よく見るとそれは仏様でした みんなで川岸の小高い場所に運び村の人に仏様を拾った事を知らせ

ました

村の人達は 樋井川上流のお寺や村々のお堂で仏像がなくなっていだろうか 尋ねてまわりました しかし 何処にもなくなったところはありませんでした

村の人達は 仏様がここに流れ着かれたのは何かのご縁だと お堂を建立し千灯して大切にまつりしました

この観音様をおまつりして以来 上長尾地区では子供たちの病気なども少なくなり 元気に育ったと言い伝えられています

またある年台風が襲ったので 千灯明を中止しましたが その年に疫病が大流行したとも言い伝えられそれ以来 毎年7月17日に千灯明のおまつりをしています

おまつりしてある観音様は 子供たちの「守り仏」として今も敬い親しまれています

西暦2000年7月17日 松隈良博 撰文



「千灯明の由来」碑（2013.2.22撮影）

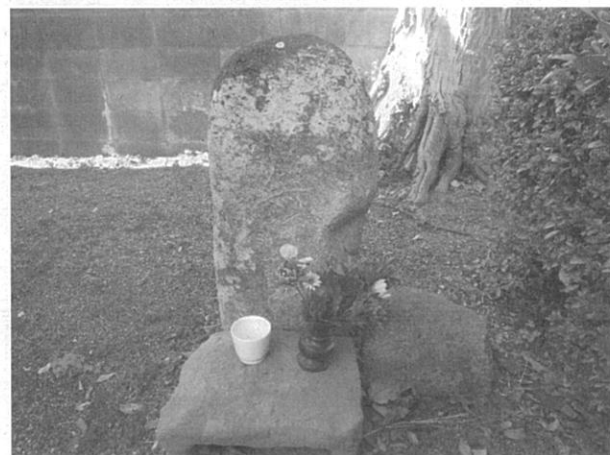
③「南無阿弥陀仏」の石塔

【概要】②「千灯明の由来」碑のすぐ近くにある。

【銘文】

〔表〕南無阿弥陀仏

〔裏〕判読不可



「南無阿弥陀仏」の石塔（2013.2.22撮影）

④石柱

【概要】「②千灯明の由来」碑の隣にある。

【銘文】[表] 大正十二年七月十七日 当区子供
中



石柱。写真左後方は保存館（2013.2.22 撮影）

2. 八龍社（八六宮）

【所在地】城南区樋井川3丁目13-4

【概要】地域では「はちろくさま」と呼ばれている。長尾中学校前信号の交差点から東へ100メートルほど先にT字路があり、ここから少し南下したところにある。周囲と比べて一段高くなっている場所に祀られている。堂の額には「八龍神社」と書かれ、その中に*1 八六宮が祀られている。

【境内の石造物等】堂内部に八六宮、堂のとなりに*2 石造物（「□□□方神」）が祀られている

【銘文】

*1 八六宮

[表] 文永十年六月 八六宮

（※堂の額にも「八龍神社」とあるように、八大龍王が祀られているようだが、堂の中の石塔には「八六宮」と彫られ、「八大」ではないように見える）



八龍社（2013.2.22 撮影）

3. 宝台遺跡出土の甕棺

【所在地】宝台団地6棟東側、宝台管理サービス事務所入口右側

【概要】宝台団地の管理事務所に、宝台遺跡から出土した甕棺が展示されている。

宝台遺跡の説明板*1の隣のスペースに①合口式甕棺、②単式甕棺が展示され、それぞれの甕棺のそばに説明板*2*3が置かれている。

【碑文等】

*1 宝台遺跡の説明板

宝台遺跡

宝台、この地には約二千年前（弥生時代の中頃）にも人々の生活が営まれていました。人々は、この地にかつてあった、いくつかの屋根に分かれて住み、一つの屋根には、五軒ほどの家（竪穴式住居）が建てられ、日常の生活や生産活動が、共同で行われていました。いくつかの屋根に分かれて生活していた人々も、水田を工作したり、新しい土地を開発したりするときには一つにまとまってムラを構成し、また、死後の世界も一つのムラでまとまっていた。

それは、各屋根の人々が集まって、一つのムラに一つの共同墓地（甕棺墓地）をつくっていたことから明らかになったのです。

当時は平等な社会から少数の人達が、他の大勢の人々を支配するような社会への過渡的なしかも重要な時代でした。

宝台の遺跡はそのような事実を明らかにしてくれた数少ない重要な遺跡の一つです。

昭和四十六年三月 発掘調査

日本住宅公団福岡支所

福岡市教育委員会



正面の建物が管理サービス事務所。写真右側の展示スペースに甕棺が置かれている（2013.2.21 撮影）

①合口式甕棺

【碑文等】

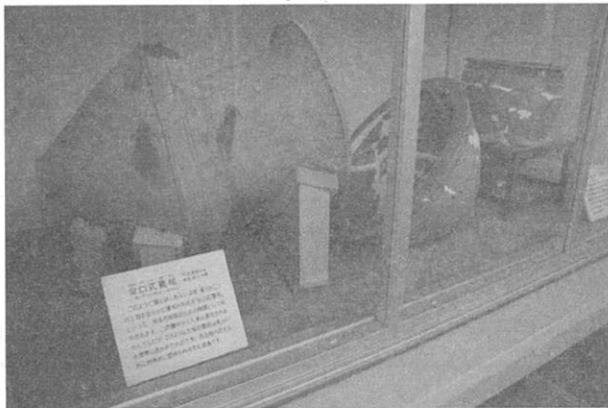
*2 説明板

合口式甕棺 宝台遺跡出土 弥生時代中期

高さ 170 cm（下甕 123 cm・上甕 47 cm）

このように甕と鉢（あるいは甕・壺）の二つの土器を合わせた甕棺の形式を「合口式甕棺」といって、死者の埋葬のために棺桶として利用されま

す。この甕中から人骨は発見されませんでした。が、このような大型の甕棺は成人（大人）の埋葬に使われたものです。弥生時代の北九州に特徴的に認められる文化現象です。



合口式甕棺。左端下甕、中央上甕（2013.2.21 撮影）

②単式甕棺

【碑文等】

*3 説明板

単式甕棺 宝台遺跡出土 弥生時代中期
高さ 60.5cm

これは大型の「合口式甕棺」に比べて小さな甕一つで棺桶に使われたもので、幼児あるいは小児の埋葬に使われたものです。これらの甕棺は方形や楕円形に堀くぼめられた穴の中に水平に近い傾斜をもたせて横にねかせて土中に納められます。その口には木や石で蓋をするのが通例です。



単式甕棺（2013.2.21 撮影）

4.御子神社

【所在地】城南区樋井川 3 丁目 43-17

①御子神社

【概要】祭神として正殿に^{あんとくでんのう}安徳天皇を祀り、左脇殿に^{ひきおんしや}祇園社、右脇殿に^{しやにちしや}社日社（社日天）を祀る。御子神社は、子どもの守り神であり、安産の神様とされている。境内には多くの石造物のほか、地域に残る民具や写真を展示した上長尾歴史資料館を併設している。

【境内祠堂等】

②祇園社、③社日社（社日天）、④地蔵の祠（室町期の板碑等）のほか、説明板*1*2、鳥居、狛犬、灯籠、潮井台、「御子神社」碑（「侯爵黒田長成謹書」の銘あり）、御子神社御遷宮記念碑（「平成22年」）、火の見櫓の石柱（田屋橋そばのもの）など多数。

【碑文等】

*1 説明板（参道階段下付近）

御子神社（安産と子供の守り神）

◎祭神 正殿 安徳天皇

左脇殿 祇園社

右脇殿 社日社

安産祈願・子供成長祈願・学業祈願・厄除け祈願・商売繁盛祈願・良縁祈願・安全祈願・五穀豊穡祈願

◎例祭

一月一日 歳旦祭

一月二日 お正月

一月三日 お正月

五月二日 春季大祭（八十八夜）

七月二十三日 夏越祭（除蝗祭）

九月 社日祭

十月二十日 秋季例大祭

毎月一日、十五日、祝祭日は日々の平安と今日在ることを神に感謝し、明日から新たなる御加護を祈る大切な日です。どうぞ御子神社にご参拝ください。

*2 説明板（境内）

御子神社由緒（上長尾地区の氏神様）

◎祭神 安徳天皇 御子御神（安産と子供の守り神）

御子神社がこの地に建立された年代ははっきりしませんが、明治五年十一月三日上長尾村社に定められ、古きより安産の上、子供の守り神として近郷の崇敬が篤い神社であります。

当御子神社の古くからの言い伝えや筑前国続風土記拾遺によると、安徳天皇がある年の大晦日に太宰府から糸島郡吉井に遷御されたさい（安徳天皇御事跡論にも見られます）、白馬に乗ってこの地区を通り過ぎようとされましたが、誤ってシメ縄に引っ掛かり井戸に落ちたと伝えられています。

この古い言い伝えにより、昔から上長尾地区では、白馬は飼わない、正月のシメ縄は飾らない、又井戸は掘ってはならないと言い伝えられています。また、御子神社には末社の祇園社、豊作の祈願、収穫の感謝を行う社日社を祀っております。

飛び地境内社として旧シノコに篠子神社(宮司、石橋家自宅内)があります。

◎例祭日

歳旦祭 一月一日
春季大祭 五月二日(八十八夜)
夏越祭り 七月二十三日(除蝗祭)
社日祭 九月
秋季例大祭 十月二十日

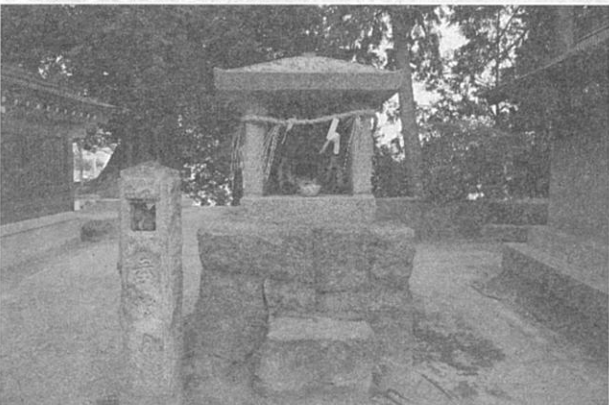


御子神社 (2013.2.22 撮影)

②祇園社

【概要】御子神社の社殿の南隣りにある。地域では、京都の八坂神社から分祀されたと伝えられている。また、その隣に「③社日社(社日天)」がある。

【銘文】[裏側] 明治四十五年十二月

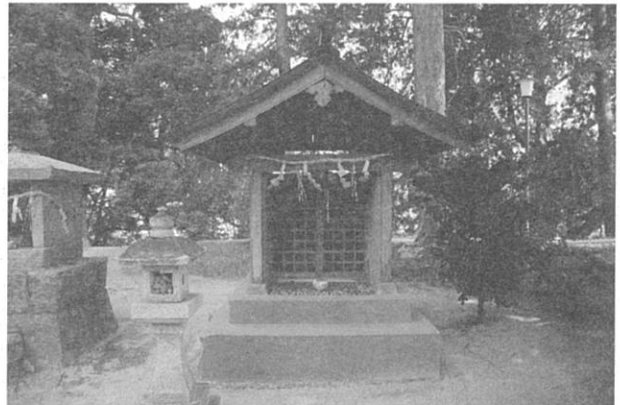


祇園社。向かって右に③社日社(2013.2.22 撮影)

③社日社(「社日天」)

【概要】御子神社社殿の南側にある。隣に「②祇園社」がある。

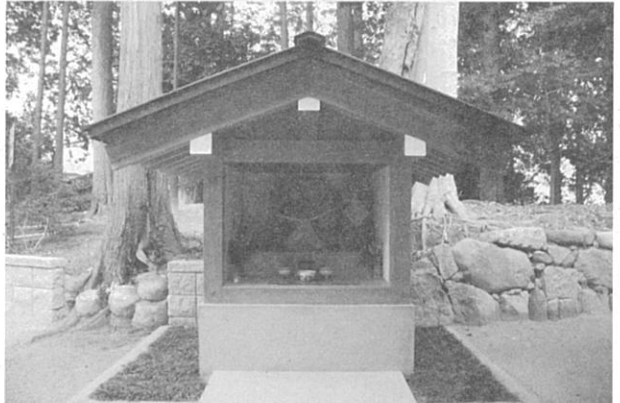
【銘文】[堂内部の石造物] 社日天



社日社。向かって左に②祇園社(2013.2.22 撮影)

④地蔵の祠

【概要】社殿向かって左側に堂があり、その中に安置されている。地蔵のほか、室町期の板碑が祀られている。



地蔵の祠。写真手前側に御子神社社殿(2013.2.22 撮影)

5. 「御子神社 明治維新百年記念」碑

【所在地】南区西長住(上長尾交差点の樋井川よりの路上、田屋橋の南側)

【概要】南区に位置するが、御子神社関係者によって建てられたものと考えられるため、ここに記載する。碑文から、1868(明治元)年からちょうど100年後の1968(昭和四十三)年に建てられたものとわかる。

【碑文等】

[表] 御子神社

[裏]

明治維新百年記念

昭和四十三年十月吉日

船津 信

平岡四郎

関 満

篠隈素臣

古谷又次

石橋文規

石松正男

浦 政 行

石橋和美
木村義己
吉浦重樹
橋口良海
石工 鶴田圓



「御子神社 明治維新百年記念」碑
(写真後方は樋井川、2013.2.22 撮影)

6. 恵比須神社

【所在地】城南区堤2丁目12・12(坂田氏敷地内)

【概要】福岡堤郵便局(城南区堤2丁目20・4)から油山観光道路を挟んで反対側の道に入り、30メートルほど進んだ先にある。堂の隣に説明板*1が置かれており、由緒が書かれている。

【碑文等】

説明板*1

恵比須神社由緒記

此處に鎮座まします恵比須さまは約百数十年の昔より久留米市三本松町の商家の邸内にお祭りされて居て近くに月読神社も有り参詣の方々が絶えなかったと伝えられて居りました 昭和二十年戦災にあい付近一帯は全部消失しましたが恵比須さまのみは不思議と石の祠と共に無事でした 昭和二十三年縁あって其の宅地を私(坂田松雄)が譲り受けそれ以来お祭り致して参りました

昭和四十一年此の地へ転居致す事となり恵比須さまも一緒に此の地へ転居して現在に到った次第で御座います

大祭 一月十日
例祭 毎月十日



恵比須神社 (2013.2.22 撮影)

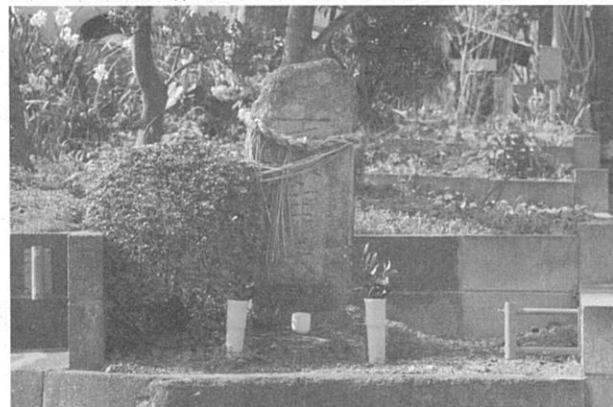
7. 庚申天

【所在地】城南区樋井川6丁目33・13(横内信号交差点の北西付近)

【概要】横内信号のそば。『福岡市の庚申塔』によると、年代は明和四年(1767)。材質は花崗岩、法量 81.0×50.5。

【銘文】[表] 庚申天、[右側面] 明和四天/亥三月六日

【参考文献】福岡市教育委員会編 1993『福岡市の庚申塔』福岡市教育委員会 (p.49、p.109、該当NO.200 城・9)



庚申天。写真左側が横内信号交差点 (2013.2.22 撮影)

8. 「横内土地区画整理事業記念」碑

【所在地】城南区樋井川6丁目3(横内公園内)

【概要】横内公園の南西の隅付近にある。碑文から、1974(昭和四十九)年に地区の区画整理事業が完成した記念に建てられたものとわかる。

【碑文等】

[表]

横内土地区画整理事業
完成記念

昭和49年4月19日

福岡市長 進藤一馬 謹書

[裏]

事業概要

施工地区面積 二四四、九〇九平方メートル

組合員数 一一五 名
事業費 三六五、七二九、〇〇〇円
組合設立認可 昭和四十六年三月二十四日

役員名
理事長 成吉 保
福理事長 篠隈仁郎
工事担当理事 浦 政行
理事 礒山一貞
〃 吉浦 寛
〃 佐藤邦夫
〃 荒川 洋
〃 川原将男
監事 吉浦七之助
〃 高山久生
顧問 副田直司
〃 船越復生
工事施工業者 飯田建設株式会社



「横内土地区画整理事業記念」碑(2013.2.22 撮影)

9. 東油山会館の石造物

【所在地】城南区東油山 4 丁目 1-8 (東油山会館)

① 庚申□

【概要】東油山会館敷地内に並んで置かれている石造物のうちのひとつ。地中に埋まっており、一部文字が読み取れない。『福岡市の庚申塔』によると、材質は花崗岩、法量 63.0×34.0。

【銘文】〔表〕庚申□

【参考文献】福岡市教育委員会編 1993『福岡市の庚申塔』福岡市教育委員会 (p.50、p.109、該当 NO.201 城・10)



庚申□ (向かって左に②庚申尊□、2013.2.22 撮影)

② 庚申尊□

【概要】東油山会館敷地内に並んで置かれている石造物のうちのひとつ。地中に埋まっており、一部文字が読み取れない。『福岡市の庚申塔』によると、年代は明和九年 (1772)。材質は花崗岩、法量 53.0×41.0。

【銘文】〔表〕庚申尊□

〔表右〕明和九□辰

〔表左〕十月吉□

【参考文献】福岡市教育委員会編 1993『福岡市の庚申塔』福岡市教育委員会 (p.50、p.109、該当 NO.202 城・11)



庚申尊□ (右に①庚申□、左に③猿田彦大□、2013.2.22 撮影)

③ 猿田彦大□

【概要】東油山会館敷地内に並んで置かれている石造物のうちのひとつ。地中に埋まっており、一部文字が読み取れない。年代は天保四年 (1833)。材質は花崗岩、法量 66.0×52.0。

【銘文】

〔表〕猿田彦大□

〔左側面〕天保四巳年／二月吉日

【参考文献】福岡市教育委員会編 1993『福岡市の庚申塔』福岡市教育委員会 (p.50、110、NO.203 城・12)



猿田彦大口（右に②庚申尊口、2013.2.22 撮影）

④石仏の祠

【概要】東油山会館敷地内に並んで置かれている石造物のうちの一つ。2つの祠の中に石仏が計3体安置されている。



石仏の祠（2013.2.22 撮影）

10.庚申天こうしんてん

【所在地】城南区東油山1丁目34・38 吉浦氏敷地内

【概要】駄ヶ原バス停から入り、吉浦氏宅そばにある。『福岡市の庚申塔』によると、年代は明和九年（1772）。材質は花崗岩、法量147.0×84.0。

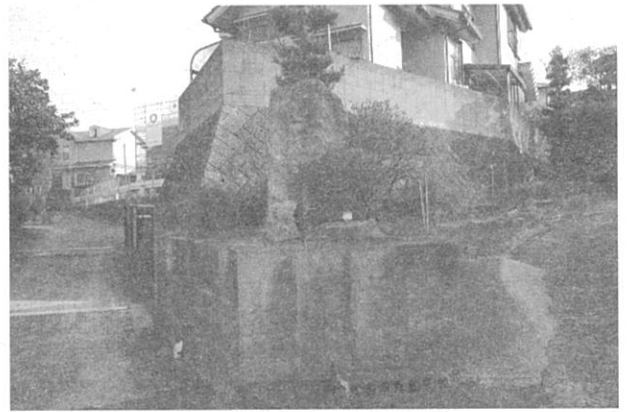
【銘文】

〔表〕庚申天

〔表右〕明和九天

〔表左〕八月吉日

【参考文献】福岡市教育委員会編 1993『福岡市の庚申塔』福岡市教育委員会(p.50、p.110、NO.204城・13)



庚申天（2013.2.22 撮影）

11.赤地殿あかぢどんの塚

【所在地】城南区東油山5丁目・3

【概要】地域では、七隈の菊池神社などで祀られている菊池武時の家臣がここで力尽きたという伝承がある。以下、『新風土記 かたえ』からの抜粋。「1333（元弘3）年3月、九州探題を攻めて、逆に敗死した主君、菊池武時の悲報を知らせるため、熊本へと馬を飛ばせた赤星三郎有隆は、乗馬が駄ヶ原（東油山）の湿田に足をとられたところを、残党狩りの追ってに討たれ、あえなく絶命。地元の人々は武将の名をとって「あかじどん」の塚を建て、その弔いが現在も続いています」（片江校区郷土史研究会編 2003：59）。

【参考文献】片江校区郷土史研究会編 2003『新風土記 かたえ』片江校区郷土史研究会 p.59



赤地殿の塚（2013.2.22 撮影）

12.「福岡市水道埋設管」ひょうちゅう標柱

【所在地】城南区東油山5丁目池田橋たもと

【概要】池田橋を挟んで東西に計2本の標柱がある。

【銘文】*1 西側の標柱（一部土中に埋まっており、読み取れない）

〔表〕福岡市水道局口、〔右〕口径一二〇〇口、

〔左〕昭和五十六年口、〔裏〕福岡市水道局口



「福岡市水道埋設管」標柱。写真は西側の標柱。川を挟んで反対側にもう1本ある（2013.2.22撮影）

13. 猿田彦大神

【所在地】城南区東油山6丁目 17-20

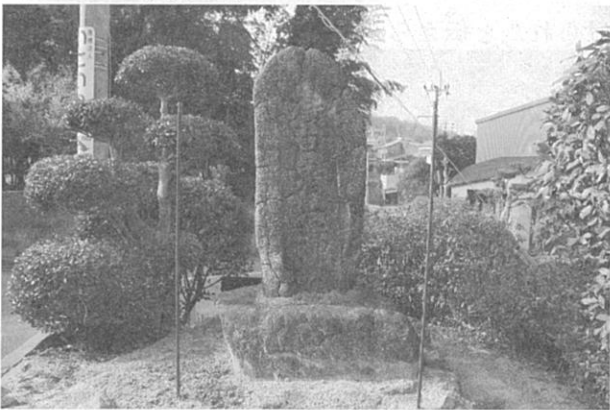
【概要】『福岡市の庚申塔』によると、年代は明治（一部年号が読み取れない）。材質は花崗岩、法量は147.0×84.0（福岡市教育委員会編 1993：110）。地区の数軒の家によって祀られている（2013年3月の調査時）。

【銘文】

【表】猿田彦大神

【左側面】明治四〇〇年八月吉日

【参考文献】福岡市教育委員会編 1993『福岡市の庚申塔』福岡市教育委員会（p.50、p.110、該当NO.205 城・14）



猿田彦大神（2013.2.22撮影）

14. 石仏

【所在地】城南区東油山6丁目 19 城戸賢一氏敷地内

【概要】仏像が8体ほど置かれている。それぞれの前には花が供えられている。



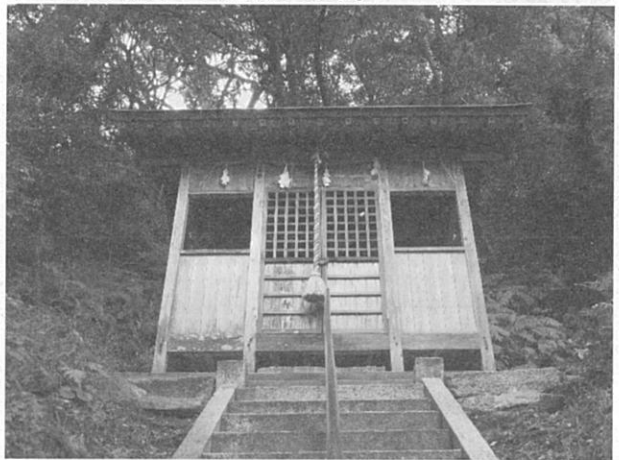
地藏（2013.2.22撮影）

15. 海神社

【所在地】城南区東油山

【概要】油山の中腹に鎮座する。元々は「龍樹権現社」と称していたが、明治の神仏分離以降に「海神社」と改称して現在に到る。海神社の年間の祭礼の一つには2月1日に行われる粥占がある。

【境内祠堂等】小祠（社殿の隣）のほか、参道階段下の鳥居などの石造物がある。



海神社の社殿（2013.3.7撮影）

16. 油山十六景

【所在地】油山山中に点在

【概要】昭和の初期頃に整備されたという。十六景は、①六地藏、②坊住跡、③鎮西国師学寮跡、④新羅式石門、⑤光ヶ瀧、⑥油谷、⑦浩然台、⑧妙見岩、⑨国見岩、⑩姫ヶ淵、⑪夫婦岩、⑫山笠岩、⑬白波の瀧、⑭天狗岩、⑮道德の谷、⑯夫婦滝からなる。十六景のそれぞれには、共通したデザインの説明板（白色、金属製）が立てられている。

①六地藏

【説明板】

六地藏

寛文12 (1672) 疫病が流行したとき供養のため建立された供養塔で、六体の地藏を祭っています。大乘妙典一字一石の塔も同時に建てられました。



六地藏

②坊住跡

【説明板】

坊住跡

敏達天皇の勅願により東西油山に720の僧坊(勉強部屋)が建立されたが戦国時代(天正の頃)龍造寺隆信との戦いで兵火に見舞われ、全山灰塵に帰した。現在油山観音正覚寺参道左側檜林に僧坊の一つで石垣のみが残っている。

③鎮西国師学寮跡

【説明板】

鎮西国師学寮跡 (油山十六景)

鎮西国師は筑前国香月の庄の出身で、学徳兼備の聖であり、師が建久2年(西暦1191年)に来山し学問所を建てた跡といわれています。その跡に浄土宗関係者によって記念碑が建てられています。



中央付近に記念碑(表に「鎮西上人霊蹟 浄土

門主現有拝書」とある)

④新羅式石門

【説明板】

新羅式石門

黒田忠之公建立の桜門跡に明治23年(1890年)古代朝鮮から渡来した石門造の技法で建立されています。

この石門は一人の修行僧が精魂こめて造ったもので、本来三層の屋根が二層になっているのは、建造中力尽きその結果の作といわれています。

⑤光ヶ瀧

【説明板】

油山観音正覚寺の奥の院ともいわれ、その昔、田島(城南区)の土手から見たとき瀧がきらきらと光っていたところから名づけられました。瀧の中央には、不動明王が安置され、信者の修業のための霊域とされていました。

⑥油谷

【説明板】

油谷

光ヶ瀧より峠を超えた東側で、青年の家の、丁度真上あたりです。600m~700mほど椿が群生し、その実を絞って清賀上人が油山と名付けられたと伝えられております。



油谷

⑦浩然台

【説明板】

浩然台

福岡市の市街地が眼下に一望され、油山登山の際休息するのに絶好の岩場でありましたが、近年樹木が成長し、眺望ができなくなりました。昔は松が生えていて、観月の宴も開かれました。



浩然台。中央奥に説明板。

⑧妙見岩

【説明板】

昔、北辰妙見大菩薩がまつられていたところ
で、龍樹権現の上宮と称されていますが、今は
大岩のみが残っています。干ばつのとき、焚火を
たき、太鼓をたたいて、雨乞いをした場所です。



妙見岩（写真右）と説明板

⑨国見岩

【説明板】

妙見岩から300m南の尾根伝いにある二段重
ねの岩で、筑前の國（朝倉から遠賀まで）が見渡
せるということで、この名が付けられたといいま
す。黒田公が城下の配置を眺めたといわれ、
市街地が一望され、眺望絶景の場所です。



国見岩

⑩姫ヶ淵

【説明板】

姫ヶ淵（油山十六景）
黒田のお殿様が狩でおいでになったとき、同伴
していたお姫様の駕籠を降したところから、
姫ヶ淵と言い伝えられています。



姫ヶ淵近くのつりばし

⑪夫婦岩

【説明板】

夫婦岩（油山十六景）
二つの大岩が仲良く相對しているところから
名付けられ、地名の由来ともなっています。展望
台は、昭和44年に市民の森が整備されたときに
建設されたものです。



夫婦岩

⑫山笠岩

【説明板】

山笠岩（油山十六景）
形がとても優美で、山笠にしたらよいだろうと
いうことで名付けられました。
又、博多の庭師が山笠岩の姿を見て庭をこしら
えたともいいます。



山笠岩

⑬ 白波の滝

【説明板】

白波の滝（油山十六景）

市民の森の中を流れる三つの溪流が一ヶ所に集まり滝の水が岩場を白く噴んで飛び散っているとところから名付けられました。



白波の滝

⑭ 天狗岩

【説明板】

天狗岩（油山十六景）

絶壁が聳立して奇観をなし、天狗でなければ登れない岩だということからこの名がつけました。



天狗岩

⑮ 道德の谷

【説明板】

道德の谷

はっきりした場所は、わからないがこの付近の谷川沿いで道德坊が修業したといわれる。



道德の谷

⑯ 夫婦滝

【説明板】

夫婦滝

池の水を放水するとき、洪水を防ぐため大小二つの滝（男滝、女滝）に分けて流して、できた滝。又、夫婦岩の直下にあるのでこの名前がつけられたともいわれる。



夫婦滝。写真に向かって中央左側には不動明王が祀られている。

※以上、①から⑯までの油山十六景の現地調査、および写真撮影は紫垣義憲氏による。